

2012年6月15日
11S4014 則武宏彦

医療福祉ジャーナリズム特論
第9回「雑誌とサイトで立体的に発信する」

“爽やかな一陣の風が吹き抜けて”

なんといってよいのか、大江さん、大城さんお二人のお話を聴き終えて、久しぶりに、本当に爽やかな、清々しさを満喫させてもらいました。これまでの講演も、負けず劣らず、素晴らしいものばかりで、プロとして、あるいは人間としての打ち込み方に、心を揺さぶられながら聴いてきたものばかりです。

でも、今回のお話は、本当にこれまでの講演とは違った爽やかさ、清々しさを感じたのです。

何故、今回だけ、そんな印象を受けたのか、色々と思い巡らしてみたところ、自分なりに、こういうことなのではないかなという思いに辿り着きました。それを少し書いてみます。

爽やかさの根底には、おそらく間違いなく、年齢があるような気がします。お二人の年齢は、それを聴くまでの私の想定と大きく異なり、その若さにいろんな意味で驚かされました。

何より、WEDGE というあの落ち着いた世界を、こんな若い世代の人たちが切り盛りされていたとは！というのがひとつ。その一方で、そうした実績を積み上げて来られながら、お二人とも、本当に謙虚で、驕り高ぶったところが微塵も感じられませんでした。

この年齢で、実るほど---の世界を体現されているのは、ロートルとして、ちょっぴりショックだったのですが、同時に頼もしくもあり、嬉しくもあり、といった心境です。

さて、さらに話が回転していきますが、上記のごとく謙虚でありながら、チャレンジ精神は失わず、果敢にトライしものにしていくのが、またまた驚きで、でもその反面、己の身の丈は冷静に値踏みできている、このバランスの素晴らしさにも拍手です。

もう一つ、感心するのは、バランスの良さを保ちながらも、自分達の意見や考えはしっかり持っていることも素晴らしいところです。

こうした奇跡を支えているもの、ご自分たちの能力はひとまず横に置かせてもらうとして、私が察するに、それは次のふたつなのではないかと勝手に想像し得心しています。

その2点は、講演の中でも明確に発現されておられましたので、当然お二人は十分自覚されていると思われませんが。

ひとつは、「えにし」の蔓たぐり。もうひとつは、経営層？の「やってみなはれ」ではないかと推察しています。前者の蔓たぐりを実際に実行せしめているのは、論旨が堂々巡りになってしまうかもしれませんが、己を知る謙虚さと、チャレンジすることを厭わない志なのかと思います。

こういうお二人であれば、「やってみなはれ」を言うのは、たやすいことなのかもしれませんが。ますますのご活躍を心より祈念しています。

最後になりますが、私も、これまで未知であった様々な世界に目を広げてくれたゆき先生には、心から感謝するとともに、お二人の様に、私も折角の蔓を手繰ること、そして手繰られる蔓になれるよう、残された春秋を楽しみながら歩んでいきたいと思えます。

本当に、さわやかな風を、満喫させてもらった夕べでした。